

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

大陽俳句会

百八段下りて出で湯や秋の宿

岩重 みどり

台風裡ランタン頼り厨ごと

鍋山 美智子

川岸の釣の少年秋の雲

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

市柴の古道にかかる石橋よ

眼つむれば大八車揺る

大森 巳喜生

雑草、否 花ならならん裏庭を

びっしり占むる風のトレニア

長倉 佳律子

ジャム瓶を今日も買ひ足すブルーベリー

熟るれば採りぬ責任感に

泊 康

大陽短歌会

シェーバーの音壁ごしに聞こえる

隣室の人今日は手術か

川辺 敦子

パトカーがサイレン鳴らし後方に

「もしや自分？」とあわてて停車

北村 弘子

舌先にビリビリ神経早走る

スマホ失せしを我は気づきぬ

西山 美代子

財部短歌会

ゆふひかり里の稜線くきやかに

秋は澄みたり映る黄の色

井上 澄子

立秋の声届く朝手に触るる

昨日と違ふ冷ややかな水

脇丸 洋子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

横んご女房 団子を山盛り

飲んべ出っ 胡摩ヶ野 べぶまつ

団子汁は 美味ち三杯

食ろた婆 山中 ミツどん

月見団子 仰んこね眺め

うつつ食われ 高瀬 博多夜舟

孫ん娘が 粽団子を

食ごたつち 浜田 一好

団子汁も 婆と母にや味や

違ごわせつ 桐野 奈世

盆団子を 沢山ひつづく

腐されつ 西留 辰子